

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年8月7日
【四半期会計期間】	第121期第1四半期（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）
【会社名】	NTN株式会社
【英訳名】	NTN CORPORATION
【代表者の役職氏名】	執行役社長 大久保 博司
【本店の所在の場所】	大阪市西区京町堀一丁目3番17号
【電話番号】	06(6443)5001
【事務連絡者氏名】	執行役財務本部長 十河 哲也
【最寄りの連絡場所】	東京都港区港南二丁目16番2号太陽生命品川ビル
【電話番号】	03(6713)3660
【事務連絡者氏名】	自動車事業本部営業管理部長 高山 美昭
【縦覧に供する場所】	NTN株式会社自動車事業本部営業管理部 （東京都港区港南二丁目16番2号太陽生命品川ビル） NTN株式会社産業機械事業本部名古屋支社 （名古屋市中区錦二丁目3番4号名古屋錦フロントタワー） NTN株式会社産業機械事業本部桑名製作所 （三重県桑名市大字東方字土島2454番地） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第120期 第1四半期 連結累計期間	第121期 第1四半期 連結累計期間	第120期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年6月30日	自2019年4月1日 至2019年6月30日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (百万円)	189,199	171,675	733,569
経常利益 (百万円)	8,337	2,603	22,231
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は親会 社株主に帰属する当期 純損失() (百万円)	5,903	2,396	6,958
四半期包括利益 又は包括利益 (百万円)	4,689	4,639	14,631
純資産額 (百万円)	270,431	237,766	246,404
総資産額 (百万円)	840,631	827,564	840,750
1株当たり四半期 純利益又は1株当たり 当期純損失() (円)	11.12	4.51	13.10
自己資本比率 (%)	30.2	26.9	27.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	11,461	13,177	43,224
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	14,698	12,465	65,614
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,777	731	20,745
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	85,616	82,843	83,474

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 第120期第1四半期連結累計期間及び第121期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第120期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間（2019年4月1日～2019年6月30日）における日本経済は、輸出や生産に弱さがみられましたが、雇用・所得環境の改善などから、緩やかな回復が続きました。海外においては、米国経済は、通商問題による影響がありましたが堅調に推移し、欧州経済は、政策に関する不確実性等によって一部に弱さがみられました。アジア他では、中国経済は、米国との貿易摩擦等の影響により景気は緩やかに減速し、その他新興国経済は、緩やかな回復の動きが続きました。

このような環境のもと、当社グループは2018年4月にスタートした3年間の中期経営計画「DRIVE NTN 100」において、最新デジタル技術と当社グループが培ってきた経営資源を融合させ、「革新的な技術・商品・サービスの開発」、「調達改革」、「生産性と品質の追求」、「資産効率の向上」を図っております。これらの実現のための諸施策を推し進め、事業構造の変革を加速させてまいりましたが、当第1四半期連結累計期間の業績は前年同期の水準に至りませんでした。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、171,675百万円（前年同期比9.3%減）となりました。損益につきましては、営業利益は3,119百万円（前年同期比68.6%減）、経常利益は2,603百万円（前年同期比68.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,396百万円（前年同期比59.4%減）となりました。

セグメントの経営成績につきましては、以下のとおりであります。

日本

販売につきましては、補修市場向けは産業機械補修向けで減少しました。産業機械市場向けは変減速機向けなどで減少し、自動車市場向けも客先需要の低減などにより減少しました。この結果、売上高は83,456百万円（前年同期比5.4%減）となりました。セグメント損益は固定費の減少などはありませんでしたが、販売規模の減少などにより403百万円のセグメント損失（前年同期は1,354百万円のセグメント利益）となりました。

米州

販売につきましては、補修市場向けは自動車補修向けで増加しました。産業機械市場向けは建設機械向けなどで減少し、自動車市場向けも客先需要の低減などにより減少しました。全体としては、売上高は47,107百万円（前年同期比3.5%減）となり、セグメント利益は販売規模の減少などにより21百万円（前年同期比98.8%減）となりました。

欧州

販売につきましては、補修市場向けは産業機械補修向け、及び自動車補修向けとも減少しました。産業機械市場向けは建設機械向けや風力発電向けなどで減少し、自動車市場向けは客先需要の低減などにより減少しました。この結果、売上高は42,604百万円（前年同期比16.1%減）となりました。セグメント利益は固定費の減少などはありませんでしたが、販売規模の減少などにより99百万円（前年同期比80.8%減）となりました。

アジア他

販売につきましては、補修市場向けは自動車補修向けで減少しました。産業機械市場向けは鉄道車両向けなどで減少しました。自動車市場向けは客先需要の低減などにより減少しました。この結果、売上高は34,976百万円（前年同期比13.8%減）となり、セグメント利益は固定費の減少などはありませんでしたが、販売規模の減少などにより2,875百万円（前年同期比42.1%減）となりました。

(補足情報)

1) 事業形態別損益

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日) (単位:百万円)

	補修市場向け	産業機械市場向け	自動車市場向け	合計
外部顧客への売上高	30,502	31,186	127,510	189,199
営業利益	4,085	1,134	4,702	9,922

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日) (単位:百万円)

	補修市場向け	産業機械市場向け	自動車市場向け	合計
外部顧客への売上高	28,218	28,164	115,293	171,675
営業利益	3,318	318	120	3,119

補修市場向け

客先需要の低減などにより売上高は28,218百万円(前年同期比7.5%減)となりました。営業利益は販売規模の減少などにより3,318百万円(前年同期比18.8%減)となりました。

産業機械市場向け

建設機械向けなどの減少などにより売上高は28,164百万円(前年同期比9.7%減)となりました。営業損益は販売規模の減少などにより318百万円の営業損失(前年同期は1,134百万円の営業利益)となりました。

自動車市場向け

客先需要の低減などにより売上高は115,293百万円(前年同期比9.6%減)となりました。営業利益は固定費の減少などはありませんでしたが、販売規模の減少などにより120百万円(前年同期比97.4%減)となりました。

2) 地域別売上高

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日) (単位:百万円)

日本	米州	欧州	アジア他	合計
51,637	49,286	46,612	41,662	189,199

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日) (単位:百万円)

日本	米州	欧州	アジア他	合計
49,467	47,866	38,834	35,507	171,675

(注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2. 地理的接近度により、複数の国又は地域を括った地域に区分しております。

3. 各区分に属する主な国又は地域.....米州 : アメリカ、カナダ、中南米
 欧州 : ドイツ、フランス、イギリス等
 アジア他: 中国、タイ、インド等

(2) キャッシュ・フローの状況

営業活動の結果得られた資金は13,177百万円（前年同期比1,716百万円、15.0%の増加）となりました。主な内訳は減価償却費9,163百万円、売上債権の減少額5,599百万円の収入であります。

投資活動の結果使用した資金は12,465百万円（前年同期比2,233百万円、15.2%の減少）となりました。主な内訳は有形固定資産の取得による支出13,563百万円であります。

財務活動の結果使用した資金は731百万円（前年同期は3,777百万円の収入）となりました。主な内訳は短期借入れによる収入8,212百万円に対して、長期借入金の返済による支出4,676百万円であります。

これらの増減に換算差額の減少額611百万円を算入しました結果、当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は82,843百万円となり、前連結会計年度末に比べ631百万円（0.8%）の減少となりました。

(3) 会社の経営の基本方針、目標とする経営指標、中長期的な会社の経営戦略

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている会社の経営の基本方針、目標とする経営指標及び中長期的な会社の経営戦略について、重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

なお、会社の支配に関する基本方針は次のとおりです。

1) 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社グループは「新しい技術の創造と新商品の開発を通じて国際社会に貢献する（For New Technology Network：新しい技術で世界を結ぶ）」を企業理念とし、法令・規則の遵守、公正・誠実を基本に、独創的技術の創造、顧客満足度の向上、グローバル化の推進を通じて、国際企業にふさわしい企業活動を行うとともに、環境への負荷低減及び資源循環型社会の構築を目指しております。この理念のもとに企業活動を健全に継続し、株主の皆様を始め、お客様、従業員、地域社会の皆様等、あらゆるステークホルダーとの信頼関係の維持に十分に配慮し、長期的な視点に立った企業活動を行うことが当社の企業価値向上及び株主共同の利益の確保に資すると考えます。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方につきましては、当社が上場会社である以上、基本的には当社株式の大規模な買付も自由であり、最終的には上記のような観点から株主の皆様ご自身が判断されるべきものと考えております。しかしながら、当社株式に対する大規模買付行為については、株主の皆様判断の前提となる十分な情報提供が行われるよう適切なルールが定められるべきでありますし、また、当該大規模買付行為が当社の企業価値又は株主共同の利益を著しく損なうと認められる場合には、当社は、当社の企業価値又は株主共同の利益を守るために、しかるべき対抗措置を取ることができるようにすべきであると考えます。

2) 上記基本方針にかかる取組みの具体的内容

当社では、多数の株主・投資家の皆様に長期的に継続して当社に投資していただくため、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるための取組みを実施しています。

当社は、昨年3月に創業100周年を迎えましたが、次の100年においても当社の企業理念である「新しい技術の創造と新商品の開発を通じて国際社会に貢献する」企業であり続けたいと考えています。

当社グループを取り巻く市場環境として、自動車における電動化や自動運転技術の進展、産業界全般におけるIoTやAIの実用化、ロボット化等、大きな変化が起きています。当社グループは、昨年、10年後（2027年度）の長期ビジョンを策定しました。新たな領域に対して既存商品と新商品の双方で価値を提供できる事業構造に変革し、売上高1兆円、営業利益率10%以上、総資産回転率1.0回転以上、更に為替変動による利益への影響を現状から半減させることを目指します。

この長期ビジョン達成のため、昨年4月から3年間の新たな中期経営計画「DRIVE NTN 100」（DRIVE NTN Transformation for New 100：新しい100年に向けた変革を加速する）に取り組んでおります。最新デジタル技術と当社グループが培ってきた経営資源を融合させ、「革新的な技術・商品・サービスの開発」、「調達改革」、「生産性と品質の追求」、「資産効率の向上」を図ります。これらの実現のため次の3つの重要施策を推し進め、事業構造の変革を加速させてまいります。

- 1) 新領域の展開
- 2) 基盤技術・商品の強化
- 3) 事業を支える経営基盤の強化

当社は、2008年2月5日開催の当社取締役会において、当社株式の大規模買付行為に関する対応方針の導入を決議し、2008年6月27日開催の当社第109期定時株主総会において株主の皆様のご承認をいただきました。その後、直近では2017年6月23日開催の当社第118期定時株主総会において、株主の皆様のご承認をい

ただし、これを継続しております（以下、継続後の対応方針を「本対応方針」といいます。）。本対応方針は、来年6月開催予定の当社定時株主総会終結の時まで効力を有するものとします。ただし、上記期間の満了前であっても、当社株主総会において本対応方針を廃止する旨の決議が行われた場合には、本対応方針はその時点で効力を失うものとします。

本対応方針の内容は、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、又は結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となるような当社株券等の買付行為を「大規模買付行為」とし、また当該買付を行う者を「大規模買付者」として、当社取締役会に対して当該大規模買付行為に関する情報提供を要求するものです。

大規模買付者が当社取締役会のあらかじめ定める手続に従わない場合、又は当該大規模買付行為が当社の企業価値又は株主共同の利益を著しく毀損するものであると判断される場合には、当社取締役会は、当該大規模買付者は行使することができないという行使条件を付した新株予約権の無償割当てを実施し当該大規模買付行為による損害を防止することができるものといえます。また、かかる判断にあたっては、当社取締役会は独立した第三者機関である特別委員会の勧告に原則として従うものとします。

なお、本対応方針の詳細につきましては、当社ホームページ（<https://www.ntn.co.jp>）に掲載の2017年4月28日付「当社株式の大規模買付行為に関する対応方針（買収防衛策）の継続について」をご参照ください。

3) 前記(2)の取組みについての当社取締役会の判断及びその判断にかかる理由

中期経営計画「DRIVE NTN100」を着実に実行し、中長期にわたる企業価値向上のための活動を継続することにより、当社の企業価値の向上が実現し、株主共同の利益が高まるものと考えます。

また、本対応方針は、大規模買付行為の適否を株主の皆様が判断されるにあたり、十分な情報提供を確保するために定めるものであり、特定の株主又は投資家を優遇し若しくは拒絶するものではありません。また、対抗措置として新株予約権を発行するのは、当該大規模買付行為が当社の企業価値に回復しがたい損害をもたらすものであると判断される場合等、嚴重な客観的要件を充足する場合に限定されるとともに、その発行の可否の判断にあっても、当社取締役会から独立した特別委員会の中立公正な判断に原則として従うこととしており、当社取締役会の恣意的判断を排除しております。対抗措置として発行する新株予約権及びその行使条件についても、あらかじめその内容について開示を行う等、企業価値向上及び株主共同の利益確保に必要かつ相当な範囲内の対抗措置であると考えます。

したがって、当社取締役会は、前記(2)の取組みは基本方針に沿うものであり、株主共同の利益を損なうものでないとともに、役員地位の維持を目的とするものではないと判断いたしております。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発費は5,180百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況について、重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,800,000,000
計	1,800,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年8月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	532,463,527	532,463,527	東京証券取引所 市場第1部	単元株式数 100株
計	532,463,527	532,463,527	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高 (百万円)
2019年4月1日 ~ 2019年6月30日	-	532,463	-	54,346	-	67,369

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日である2019年3月31日の株主名簿より記載しております。

【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 902,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 531,351,900	5,313,519	-
単元未満株式	普通株式 209,427	-	-
発行済株式総数	532,463,527	-	-
総株主の議決権	-	5,313,519	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、「役員報酬B I P信託」が所有する当社株式479,700株(議決権の数4,797個)が含まれております。

【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
N T N株式会社	大阪府大阪市西区 京町堀1丁目3-17	840,800	-	840,800	0.15
株式会社阪神エヌ テーエヌ	兵庫県神戸市東灘 区青木5丁目6-16	31,400	-	31,400	0.00
株式会社岐阜エ ヌ・テー・エヌ	岐阜県岐阜市徹明 通6丁目1番地	30,000	-	30,000	0.00
計	-	902,200	-	902,200	0.15

(注) 上記には、「役員報酬B I P信託」が所有する当社株式479,700株は含まれておりません。

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において、役員の変動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	90,243	89,315
受取手形及び売掛金	128,805	122,225
電子記録債権	9,505	8,639
商品及び製品	102,676	105,252
仕掛品	55,419	55,990
原材料及び貯蔵品	36,409	36,197
短期貸付金	71	68
その他	33,274	27,528
貸倒引当金	1,125	1,070
流動資産合計	455,279	444,149
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	80,062	80,507
機械装置及び運搬具（純額）	129,349	128,175
その他（純額）	70,451	72,187
有形固定資産合計	279,863	280,870
無形固定資産	31,339	33,146
投資その他の資産		
投資有価証券	59,191	53,083
繰延税金資産	10,241	11,598
その他	5,065	4,949
貸倒引当金	230	233
投資その他の資産合計	74,267	69,398
固定資産合計	385,471	383,414
資産合計	840,750	827,564

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	59,971	58,844
電子記録債務	73,187	72,842
短期借入金	96,431	111,635
未払法人税等	2,503	2,224
役員賞与引当金	161	46
その他	57,441	51,594
流動負債合計	289,697	297,188
固定負債		
社債	30,000	30,000
長期借入金	223,912	209,819
製品補償引当金	1,107	1,079
退職給付に係る負債	41,889	42,281
その他	7,738	9,428
固定負債合計	304,648	292,609
負債合計	594,346	589,798
純資産の部		
株主資本		
資本金	54,346	54,346
資本剰余金	67,970	67,970
利益剰余金	112,777	111,186
自己株式	789	788
株主資本合計	234,305	232,715
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,020	10,750
為替換算調整勘定	7,271	12,492
退職給付に係る調整累計額	8,899	8,760
その他の包括利益累計額合計	4,150	10,502
非支配株主持分	16,249	15,553
純資産合計	246,404	237,766
負債純資産合計	840,750	827,564

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	189,199	171,675
売上原価	152,856	143,201
売上総利益	36,342	28,473
販売費及び一般管理費	26,420	25,353
営業利益	9,922	3,119
営業外収益		
受取利息	201	218
受取配当金	615	624
持分法による投資利益	72	60
デリバティブ評価益	-	505
その他	581	696
営業外収益合計	1,472	2,105
営業外費用		
支払利息	944	1,069
為替差損	1,177	874
その他	935	678
営業外費用合計	3,057	2,622
経常利益	8,337	2,603
税金等調整前四半期純利益	8,337	2,603
法人税等	1,866	240
四半期純利益	6,470	2,363
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	567	33
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,903	2,396

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	6,470	2,363
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	34	1,269
為替換算調整勘定	925	5,836
退職給付に係る調整額	194	129
持分法適用会社に対する持分相当額	696	26
その他の包括利益合計	1,781	7,002
四半期包括利益	4,689	4,639
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,258	3,954
非支配株主に係る四半期包括利益	431	685

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	8,337	2,603
減価償却費	9,483	9,163
貸倒引当金の増減額(は減少)	26	29
役員賞与引当金の増減額(は減少)	130	115
製品補償引当金の増減額(は減少)	33	17
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	304	563
受取利息及び受取配当金	817	843
支払利息	944	1,069
為替換算調整差額/為替差損益(は益)	678	439
デリバティブ評価損益(は益)	298	505
持分法による投資損益(は益)	72	60
売上債権の増減額(は増加)	2,532	5,599
たな卸資産の増減額(は増加)	9,382	5,768
仕入債務の増減額(は減少)	12	782
その他	5,681	1,860
小計	17,876	13,175
利息及び配当金の受取額	1,356	1,217
利息の支払額	898	1,047
独占禁止法関連支払額	3,557	-
法人税等の支払額	3,314	168
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,461	13,177
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,204	6
定期預金の払戻による収入	1,647	-
有形固定資産の取得による支出	11,541	13,563
無形固定資産の取得による支出	3,535	3,020
関係会社株式の売却による収入	-	4,301
短期貸付金の純増減額(は増加)	7	0
その他	71	176
投資活動によるキャッシュ・フロー	14,698	12,465
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	3,784	8,212
長期借入れによる収入	13,602	49
長期借入金の返済による支出	9,502	4,676
配当金の支払額	3,987	3,987
リース債務の返済による支出	88	319
その他	30	10
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,777	731
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,013	611
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	471	631
現金及び現金同等物の期首残高	86,087	83,474
現金及び現金同等物の四半期末残高	85,616	82,843

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(持分法適用の範囲の重要な変更)

当第1四半期連結累計期間において、新たに出資しましたPT.Astra NTN Driveshaft Indonesiaを持分法適用の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

(IFRS第16号「リース」の適用)

一部の海外連結子会社において、IFRS第16号「リース」を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

IFRS第16号の適用については、IFRS第16号の経過的な取扱いに従って、当連結会計年度の期首において、累積的影響額を有形固定資産、無形固定資産、リース債務、利益剰余金に加減しております。なお、当該会計基準の適用による連結財務諸表への影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を用いた計算をしております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務等

(訴訟等)

(1) 海外におけるベアリング(軸受)の取引等に関し、ブラジル等の当社連結子会社が、競争法違反の疑いで当局の調査等を受けております。

(2) 当社並びに当社の米国及びカナダ等の連結子会社は、他の事業者と共同してベアリング(軸受)の販売価格の引上げを決定したとして、米国及びカナダにおいて複数の民事訴訟(クラスアクション)の提起を受けております。

(3) 当社及び欧州の連結子会社2社は、仏国リヨン商業裁判所(Tribunal de Commerce de Lyon)においてRenault S.A.及び同社のグループ会社計15社(以下、「ルノー」)より損害賠償額6,670万ユーロ(暫定額)を支払うよう求める訴訟の提起を受けております。また、当社及び欧州の連結子会社2社は、英国商業裁判所(Commercial Court)においてFiat Chrysler Automobiles N.V.及び同社のグループ会社計7社(以下、「FCA」)より損害賠償を求める訴訟の提起を受けております。

これらの訴訟は、2014年3月19日付の欧州委員会決定の対象となった欧州競争法違反行為に関連して、ルノー及びFCAが損害を被ったとして提起されたものです。

(4) 当社グループは、独占禁止法違反行為に関連して、今後、損害賠償請求を受ける可能性があり、これらの請求に対して適切に対処してまいります。なお、その結果によっては当社グループの業績に影響を与える可能性があります。現時点ではその影響を合理的に見積ることは困難であり、当社グループの経営成績及び財政状態に与える影響は明らかではありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
現金及び預金勘定	87,755百万円	89,315百万円
短期貸付金	71	68
預入期間が3か月を超える定期預金	2,138	6,472
短期貸付金のうち現先以外のもの	71	68
現金及び現金同等物	85,616	82,843

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月26日 定時株主総会	普通株式	3,987	7.5	2018年3月31日	2018年6月27日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月25日 定時株主総会	普通株式	3,987	7.5	2019年3月31日	2019年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額
	日本	米州	欧州	アジア他	計		
売上高							
外部顧客への売上高	54,005	47,893	49,683	37,616	189,199	-	189,199
セグメント間の内部売上高又は 振替高	34,177	938	1,088	2,971	39,175	(39,175)	-
計	88,183	48,831	50,771	40,588	228,374	(39,175)	189,199
セグメント利益(営業利益)	1,354	1,687	516	4,963	8,521	1,400	9,922

(注)1. 調整額は、セグメント間取引消去等によるものであります。

2. 報告セグメントに属する主な国又は地域.....米州 : アメリカ、カナダ、中南米
欧州 : ドイツ、フランス、イギリス等
アジア他: 中国、タイ、インド等

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額
	日本	米州	欧州	アジア他	計		
売上高							
外部顧客への売上高	51,397	46,508	41,841	31,928	171,675	-	171,675
セグメント間の内部売上高又は 振替高	32,059	599	762	3,047	36,469	(36,469)	-
計	83,456	47,107	42,604	34,976	208,144	(36,469)	171,675
セグメント利益(営業利益又は営 業損失())	403	21	99	2,875	2,593	526	3,119

(注)1. 調整額は、セグメント間取引消去等によるものであります。

2. 報告セグメントに属する主な国又は地域.....米州 : アメリカ、カナダ、中南米
欧州 : ドイツ、フランス、イギリス等
アジア他: 中国、タイ、インド等

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
1株当たり四半期純利益	11.12円	4.51円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	5,903	2,396
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	5,903	2,396
普通株式の期中平均株式数(千株)	531,068	531,143

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月7日

NTN株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 村上 和久 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 徳野 大二 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているNTN株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、NTN株式会社及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。